

妊娠中に大量の除虫剤を投与すると貧血は減るが、他の母体や妊娠の結果には影響がない



土壌伝染性蠕虫症は、鉤虫、丸虫、鞭虫の2種類の4つの腸内寄生虫に感染することで起こる病気群である。

このレビューの目的は何か？

このキャンベル系統的レビューでは、妊娠中の大量駆虫の効果が、個人の特徴、感染強度、感染状況、社会経済状況、衛生環境、共同介入などによって異なるかどうかを探る。

妊婦は特に土壌伝染性蠕虫症(STH)のリスクが高く、これは4つの腸内寄生虫と片胞虫症の感染によって引き起こされる疾患群である。3つの研究から得られたデータを用いた個人レベルのデータ分析によると、妊娠中の大量駆虫は貧血を減少させるが、その他の母体または妊娠の結果には何ら影響を与えないことが示されている。

このレビューの目的は何か？

土壌伝染性蠕虫症(STH)は、4種類の腸内寄生虫(鉤虫、丸虫、鞭虫の2種類)への感染によって引き起こされる疾患群で、2010年には合計498万年もの障害調整生命年(YLDs)の一因となった。貧血は、STHや住血吸虫症に感染した場合、腸管や尿路での出血が原因で起こる最も一般的な副作用の一つである。低所得国(LMICs)の女性は、妊娠中や授乳中の期間が生産生活の半分以上を占めるため、特に発症しやすく、妊娠中の女性の50%以上が鉄欠乏性貧血を呈している。

このレビューでは、妊娠中の大量駆虫の効果が、個人の特徴(栄養状態、貧血)、感染強度(卵数で評価)、感染状況(ミズの種類を含む)、社会経済的状況、衛生環境、共同介入によって異なるかどうかを検討している。分析では、個々の患者データ(IPD)を使用している。これは、含まれている研究について元の個々のレベルのデータが得られ、単一のデータセットに結合されることを意味する。

どのような研究が含まれているか？

対象となる研究は、個別の無作為化比較試験(クラスター無作為化比較試験、準無作為化試験)で、妊娠中のSTHおよび住血吸虫症に対する予防的または治療的駆虫薬を提供するものである。

妊娠中の大量駆虫に関する16件の研究から、8,515人の参加者を有する7件の試験を特定し、個別のデータ解析の対象とした。これら7件の試験のうち、3件の試験からデータを取得したため、5,957人の参加者のデータを取得することができた。



このレビューはどれくらい最新のものか？

レビュー執筆者は2018年3月までの研究を検索している。

キャンベル共同研究とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。本組織は、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスを要約し、その質を評価している。本組織の目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

本要約は、Rehana Salam、Simon Cousens、Vivian Welch、Michelle Gaffey、Philippa Middleton、Maria Makrides、Paul Arora、Zulfiqar Bhuttaによって、キャンベル系統的レビュー“Mass deworming for soiltransmitted helminths and schistosomiasis among pregnant women: a systematic review and individual participant data metaanalysis”に基づき作成された。

この要約の作成のためのアメリカ研究機関からの財政支援に感謝の意を表す。

このレビューの主な知見は何か？

妊娠中の大量駆虫は、母体の貧血を4分の1近く（23%）減少させる。

トリチウラ感染症、鉤虫感染症、低出生体重、早産などの他の結果に対する妊娠中の大量駆虫の効果はない。

効果の大きさは、ベースライン時のトリチウラの強さ、ベースライン時の母体の貧血、ベースライン時の母体のBMIには影響されていない。しかし、これらの知見はサンプルサイズが小さいため、注意して解釈されるべきである。他の潜在的な中和特性は、データが不足しているため評価できない。

我々の知見に対するエビデンスの質は中等度と評価されている。妊産婦のベースラインでのワーム強度と出生時の結果についてさらに調査を行うことで、我々の知見は変わる可能性がある。

レビューの結果は何を意味するのか？

分析の結果、妊娠中の大量駆虫は貧血の減少と関連しており、その他の妊産婦または妊娠の結果には何の影響もないことが示唆された。分析は、サブグループ別の影響および効果の修正に関するデータが得られなかったために制限されていた。従って、大規模なプログラム環境での妊娠中のSTHおよび統合失調症に対する大量駆虫を評価し、その影響に影響を与える可能性のある様々な個人的および環境的要因を測定する試みが必要である。また、将来の個人レベルのデータ分析のためのオープンデータを支援し、促進する必要がある。